

02

特集:
コニカミノルタ
ビジネスクローズアップ

メディカル&グラフィック事業

「医療現場の声を 知る技術力で 世界シェア35% に挑みます」



コニカミノルタ エムジー株式会社
経営企画部長
長谷川 亨(はせがわ とおる)

コニカミノルタは、世界規模でデジタル化が進む医療・ヘルスケア分野において、最先端の画像処理技術を駆使した製品を展開しています。その核となるCR(デジタルX線画像読取装置)とオールインワン端末による事業戦略を、コニカミノルタ エムジー株式会社の長谷川亨が語ります。

CRは“医療のデジタルカメラ”。コニカミノルタは医療現場の声を開発に反映させています。

CRは、医療分野のデジタルカメラといえます。従来のレントゲンフィルムに替わるもので、CRで読みとったX線の画像はデジタルデータです。そのため、コンピュータへの保存、ファイリング、モニター表示による診療現場での活用、インターネット経由で情報伝達できるなど、画期的な特長があります。しかも、コニカミノルタはレントゲンフィルムの開発・販売を通じて、病院やクリニック(小規模診療所)の要望をよく知っている強みがあります。長い時間をかけて培ってきた信頼と経験をCRの開発に積極的に活かしています。

情報の共有化・一元管理を実現したオールインワン端末「REGIUS Unitea」。

昨今、大規模な病院とクリニックとの役割分担と連携が進んでいます。医療の効率性から見ても「かかりつけ医」がいるクリ

ニックの重要性は増していくでしょう。するとクリニックと病院との間で、X線画像や血圧、心電図、超音波診断のデータ、カルテの文字情報などを共有化する必要が生じます。クリニックにとっても、さまざまな情報を一元管理できれば効率的です。こうしたニーズに応えるべく、コニカミノルタのオールインワン端末「REGIUS Unitea」は誕生しました。CRをはじめ多くの検査機器とオンラインで連結可能なうえ、低コスト・省スペースを実現しており、クリニックでも導入しやすいのが特長です。

新興国でのCR普及はこれから。高付加価値化で市場規模はさらに膨らみます。

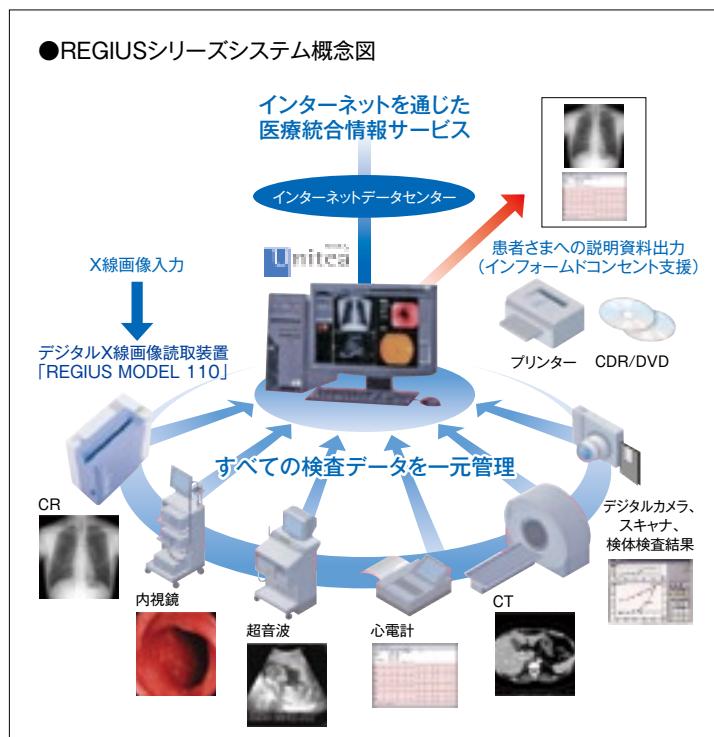
医療分野における検査データのデジタル化は急速に進んでおり、X線検査においてもCRを中心としたデジタルX線検査機器の市場規模は全世界で約2,000億円程度と見られています。すでにデジタル化が進んでいる先進諸国と比べ、中国やインド、ブラジルなど新興諸国ではこれから本格化するところな

ので、それだけでも市場規模は数倍となるでしょう。さらに、CRを中心としたシステムによる総合的な医療データ管理が主流になり、同時に検査データの保存や通信なども可能な医療統合情報サービスが実現すると、市場規模はさらに拡大する可能性があります。

光学と化学の技術力を、社会貢献につなげていきたいです。

検査データのデジタル化によって、コンピュータや家電メーカーなど、これまで医療分野の経験がなかった多数の企業も参入してきました。競争は激しいですが、コニカミノルタは、カメラや複合機で培った「光学」と、写真やフィルムで培った「化学」の2分

野での技術蓄積があり、また臨床上必要とされる画像・画質を理解していることも大きな強みです。現在、CRの世界市場における当社のシェアは20~25%ですが、今後、数年以内に35%を目指します。その一策として、欧米および中国にある海外現地法人のさらなる強化を推進しており、さらに2007年には拡大の見込まれるインド、東南アジアの市場開発を目的としてシンガポールにも販売拠点を開設しました。今後も、医療現場に合った使いやすい製品やサービスを提供し、CRの高付加価値化にも注力していきます。当社の製品やサービスが世界の医療現場で活躍し、社会貢献につなげていくことができればと考えています。



■スムーズな操作感と鮮明な画像が正確な診断に役立っています。

USER'S Voice

コニカミノルタのCRシステム(REGIUSシリーズ)を導入したのは、診断に必要なX線画像の読み込みと処理能力を備え、設置スペースが節約できるコンパクトさが最大の理由です。レントゲン撮影後にカセット(画像保存用ケース)をセットすれば、モニターですぐに画像をチェックできますし、患者さんにも画像を見せながら、ただちに説明できます。その流れはスムーズでストレスを感じません。モニターで見る画像が高精細なことも正確な診断に役立っています。画像を拡大してもボケたりせず、コントラストも変えられるため、患者さんの指先に小さなヒビが入っていることがわかったケースもありました。高機能なシステムですが、365日24時間のサポート体制が整備されているので非常に心強いです。今後は、一層のコンパクト化と、当院が紹介するほかの病院にオンラインで簡単に撮影データが送れるなど、使い勝手および機能面でさらに進化することを期待します。



六角地蔵整形外科クリニック(東京都西東京市)
院長 岩澤 範彦 先生